

平成 27 年 度

旭丘中 学校便り

第 3 号

練馬区立旭丘中学校：発行 6月

運動会で感じたこと

校 長 山 谷 安 雄

5月30日（土）に本校で運動会を実施しました。前日は雨でグランドコンディションが心配されましたが、多くの保護者と地域の皆様に見ていただき終わることができました。だいぶ日にちが経って、緊迫感のある感動は薄れてきました。この間、運動会の時の生徒の様子等について、じっくり考えてみました。

始めに、生徒達の様子から「ライバルと敵」の違いが頭に浮かびました。どの学年も A 組と B 組は、敵ではなくライバルなんだと感じました。敵は打ち負かすものです。それに対して、ライバルはお互いに高めあうものです。次に、B 組の得点が伸び悩んでいく中で判官鼻頂的な気持ちが私の中で出てきました。しかし、同情は相手に対して失礼に当たります。A 組は全力で最後まで競技を続けました。素晴らしいことだと思います。ところで、昼休みの学級の様子を話してくれた先生がいました。「みんなで楽しもうよ。全力で競技しようよ。」勝負が決まってしまったような得点差で、否定的な話をした友達に対する反論です。私の見る限り、A 組 B 組共に、同じように練習し努力していました。しかし、努力が報われるとは限りません。特に相手がいるときはそうです。生徒達の感想を見る機会がありましたが、大差の中で、頑張ろうとする気持ちの作文がいくつもありませんでした。1年間または、2年間の成長を感じさせる生徒が何人もいませんでした。また、3年生のムカデ、オオムカデの競技は、感動させられました。体調が悪いのに無理をして参加し、結果的には転んでしまった B 組ですが、会場全体が応援していたことに気付いたのでしょうか。この努力に対する賞賛は、勝ち負けに関係なく A 組と B 組に与えられました。一生の思い出であるし一生の勲章でもあります。

本校の運動会は、赤組と白組の勝負という、それより勝負の中で各クラスで起こるドラマによって子どもたちを成長させていることが一番の特徴ではないかと感じました。全員リレーでは、全員が参加することにクラス全員が意義を感じています。誰かが、走るのが遅いことで、運動会に参加を渋るようなことがないようにお互いに声をかけています。「走るのが遅いことについて、それは、もって生まれたもので、本人の責任ではない。ただ、最後まで全力で走らないことは、たとえ速く走れても責められるべきである」と生徒達はきっと感じています。そのような言動が、いたるところで見られました。「疾風迅雷」という生徒会のスローガンのもと、生徒の心の豊かさと寛容の気持ちを感じた1日でした。

【生徒の活躍】

○ D 組の移動教室 6 / 12 ~ 15 ベルデ岩井で実施
地引き網やあじの開きの体験学習等様々な体験学習を行いました。地引き網より、トビが何十羽も集まって、急降下で魚を取りに来る姿が印象的でした。動物園では見られない、自然の中でのトビの姿を見ることができました。



○部活動

- ・野球部 練馬区総合体育大会
1回戦 対練馬東中 2 - 17 勝 2回戦 対石神井中 4 - 5 勝
3回戦 対谷原中 6 / 20 の予定
- ・バレー部 練馬区総合体育大会
予選リーグ 1勝2敗 予選敗退
- ・サッカー部 練馬区総合体育大会
予選リーグ 敗退
- ・バドミントン部 練馬区総合体育大会 7月から
- ・ソフトテニス部 練馬区総合体育大会
女子団体 予選リーグ 敗退 男子個人 2回戦 敗退
個人 1回戦敗退

【その他】

- ・6 / 15 (月) 3年生が日生劇場でヘンゼルとグレーテルのミュージカルを鑑賞しました。最前列で、鑑賞ができました。事前学習を含めて、劇団の方の協力をいただきました。
- ・6 / 24 (水) から定期考査 I が始まります。
- ・練馬区総合防災訓練を6 / 30 に実施します。今年は、D組だけ引き取り訓練を行います。協力をお願いいたします。